

【荃崎地区】6月5日 サイエンスツアーに参加して

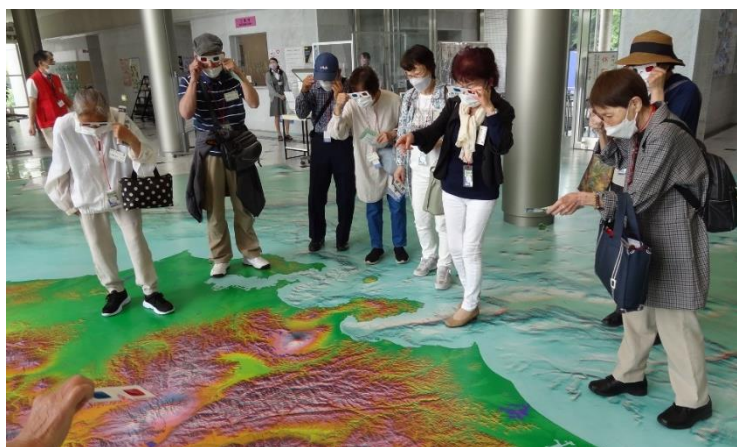
6月5日、17名の参加があってサイエンスツアーが行われ、つくばが誇る研究施設をガイド付きで見学することができました。

多くの皆さんがつくバスでつくばセンターに集合、まるで修学旅行に行くようなワクワク感をさりげなく心の奥にたたみ込み、シルバーらしく普段着を装って、9時15分ツアー専用バスで出発です。



午前には国土地理院と筑波実験植物園、昼食休憩をはさんで、午後は産総研のサイエンス・スクエアと筑波宇宙センター（JAXA）です。

国土地理院では、床に描かれた日本列島を赤青眼鏡を使って空中散歩しながら高低差を実感し、海溝に落ち込みそうになって思わず「危ないっ！」と叫んでしまう。



植物園では、ガイドさんが珍しい話、例えば、名前は忘れましたが、木に寄生する昆虫が葉の一部をきれいに切って、それを筒状に三重に簧巻きのように巻き、1cm長さくらいにして葉にぶら下げ、その中に1個の卵を産み種を保存する、その筒である巣があちこちにぶら下がっている姿は、話を聞いた後では本当に見事な工芸品のようでした。





サイエンス・スクエアでは、人の心を癒す“パロ”ロボットに出会いました。

声をかけると頭を上げ、顔を振り向け、眼をぱっちりと明けてかわいい声を出す。赤ちゃんを抱きしめるように、ふさふさした頬にすり寄せたくなってしまふ。



JAXA は、言わずと知れた日本の宇宙研究開発センター、そこには国際宇宙ステーションで活躍中の日本実験棟“きぼう”の実物大レプリカや、H-II ロケット実機の展示もある。宇宙への夢を果てしなく掻き立てる場所です。

今回の1日コースは、朝7:30に家を出て帰宅17:00、11時間を超え、歩数も8,000歩、日帰り小旅行ともいえるものでしたが、思ったほどの疲れを感じなかった、それだけメリハリのある楽しいものだったのかなと思います。

同乗のサイエンスツアーオフィスのガイドさんが、豊富な知識と巧みな話術で飽きさせ



なことも大きな要因だったかなと。

もう一度行ってみたい、そしてもうちょっと深く見学したい思いです。

【文責 村野四郎さん】